2023･07･09　　中村寿夫

「私ひとりが主の預言者として」

エリヤの生涯Ⅱ

列王記第一　19 章 1 節～21 節

はじめに

　エリヤはアハブ王に、「二、三年は露も雨も降らない」と告げてから、主のことばに従って、ケリテ川に身を隠します。そこで烏に、続いてやもめに養われることによって、「主が生きている」ことを体験します。その後、主は、エリヤにアハブに会うようにお命じになりました。

１　アハブとの対決。

（１）アハブに会いに行け（**1**）。

　ケリテ川の出来事から３年ほど経って、主はエリヤに、「アハブに会いに行け。わたしはこの地に雨を降らせよう」と言われました。
　それは、とても危険なことでした。王妃イゼベルは、主の預言者たちをことごとく殺し（4）、エリヤについては、彼を捜すために、人をやらなかった民や王国はひとつもありませんでした。国の内外をことごとく捜査させていました。
　このような時に、主はエリヤに、アハブに会いに行けとお命じになったのです。
　それでも、エリヤは、主のことばの通りに出かけて行きました。

（２）オバデヤの手引きでアハブに会う（**7-16**）。

　アハブの王宮を司るオバデヤは、非常に主を恐れる人で、王妃イゼベルが主の預言者を殺したとき、彼は 100 人の預言者をほら穴にかくまいました（4 13）。また彼は、エリヤを尊敬していました（3 7）。
　王の命令で家畜の餌を探しているときに、エリヤが会いに来て、「エリヤがここにいる」とアハブに教えなさいと言います。

オバデヤは、それを告げに言って、エリヤがいなければ、自分は殺されてしまうと、断りますが、エリヤの励ましによって、王をエリヤのところに連れて来ました。
エリヤは「あなたがたは主の命令を捨て、あなたはバアルのあとについています」と言って、バアルの預言者 450 人とアシュラの預言者 400 人を集めるように言います。
アハブはカルメル山に彼らを集めました。

２　バアルの預言者とアシュラの預言者との対決。

（１）民への呼びかけ（21）。

エリヤは民の前に進め出て、「あなたがたは、いつまでどっちつかずによろめいているのか。もし、主が神であれば、それに従い、もし、バアルが神であれば、それに従え」と挑戦します。しかし、民は一言も彼に答えませんでした。

（２）火をもって答える神（23-39）。

エリヤは、「私ひとりが主の預言者として残っている」と言い、バアルの 450 人の預言者に挑戦します。
それは、牛一頭をたきぎの上に置き、火をつけずに、神の名を呼び、「火をもって答える神、その方が神である」と宣言します。
まず、バアルの預言者たちが試みます。彼らは、朝から晩まで「バアルよ。私たちに答えてください」と叫び、祭壇の回りを踊り、終いには、剣や槍で血を流すまで、自分たちの身を傷つけました。しかし、何も起きませんでした。

（３）あなたのみことばによって、私がこれらのすべての事を行ったということが、きょう、明らかになりますように（36-37）。

エリヤは、民全体を近くに呼び集め、イスラエル 12 部族の数に従って石を取り、祭壇を築き、周りに溝を

掘らせました。
　牛を屠り、たきぎの上に載せ、４つのかめの水を２回その上からかけさせました。水は周りの溝までいっぱいにしました。火がつくことは難しいことを示した後、エリヤは、主に祈りました。
「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルの神であり、私があなたのしもべであり、あなたのみことばによって私がこれらのすべての事を行ったということが、きょう、明らかになりますように。私に答えてください。主よ。私に答えてください。この民が、あなたこそ、主よ、神であり、あなたが彼らの心を翻してくださることを知るようにしてください」。
　すると、主の火が降って来て、全焼のいけにえと、たきぎと、石と、ちりとを焼き尽くし、溝の水もなめつくしてしまいました。

適用：信仰の祈りは、答えられます。イエス様は、「もし、からし種ほどの信仰があったら、この山に『ここからあそこに移れ』と言えば移るのです。どんなことでも、あならがたにできないことはありません」と弟子たちにお教えになりました（ﾏﾀｲ 17:20）。
　そして、聖霊の満たしとその力をを求めましょう。クリスチャン生活を全うするのも、主のあかしをするのにも、必要なのは聖霊です。

（４）民はみな、これを見て、ひれ伏し、「主こそ神です。主こそ神です」と言った（39）。

　民は、もう一度、主を神と信じる信仰を告白するに至りました。そして、偶像礼拝を根絶させたのです（40）。

適用：日本のプロテスタント教会は、約 8000、信徒は 52 万人、人口比 0.4 ﾊﾟｰｾﾝﾄです。つまり、1000 人の中に 4 人です。つまり、私たちクリスチャン一人に 250 人の未信者がいることになります。これは、エリヤがバアルの 450 人を相手にしたほどではありませんが、それに近い。
　考えようによっては、伝道の余地はたくさんあるということです。

結論

　主がエリヤを烏とやもめで養い、やもめの息子を生き返らせるという体験をさせたのは、この国を偶像礼拝から真の神に立ち返らせるためでした。
　主は、エリヤにバアルの預言者 450 人、アシュラの預言者 400 人と対決させ、祈りによって勝利させ、民を真の信仰へと導きました。
　わが国は、依然として、偶像礼拝の国であり、今もそれが根強く残っています。
　そのような中で、主は私たちをお選びになり、そこから救い出し、主に仕える者としてくださいました。
　主に忠実に仕えていくことが、人々を主に立ち返らせる唯一の道です。主に献身して、歩みましょう。

　聖書が私たちに求めているのは、

１　神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
２　自分が神様に罪を犯していることを認めること。
３　イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
４　イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

　イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。
　「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」